

学校評価アンケート結果報告

令和3年1月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。さらなる教育の環境整備と質的向上、教育成果の向上のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、更なる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加えて、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく本書面をまとめました。ご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸甚です。

学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、教育意図の説明をはっきり行うことで、皆様からご明確なご判断を仰げるように努めて参ります。

「入学させて良かった」は9割超を維持

Q1 お子様を大阪高校へ入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思われますか。



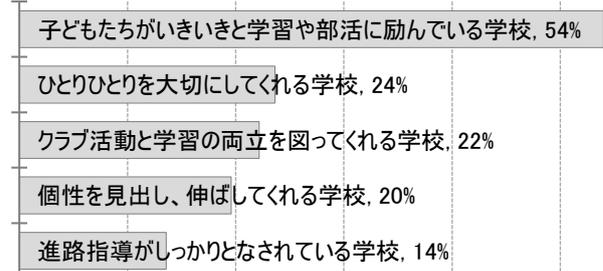
「大阪高校に入学させて良かったか」という質問で総合的な満足度を毎年お尋ねしています。肯定的な回答が占める割合は昨年度を2ポイント上回る94%となりましたが、増加の大半が「どちらかといえば」という但し書き付きのものです。来年度以降、否定をゼロに近づけ、且つより多くの保護者の皆様に迷いなく「そう思う」を選んでもらえるよう、学校をあげて教育活動の更なる改善を図ってまいります。

データを詳細に解析した結果、総合的な満足をもたらす主要因は「保護者の要望への誠実な対応」「学力向上(学習指導)」「進路希望の発見と実現(進路指導)」などにあることがわかりました。生徒の回答を得た同様のアンケートでも、大高生としての満足度を最も大きく左右するのは「授業を通じた学力向上感」です。生徒・保護者が学校に期待するところは、社会情勢の変化などによって変化してきています。今後社会が経験することになる大きな変化に対応し得る能力・資質とそれらを駆使して未来を拓く力を

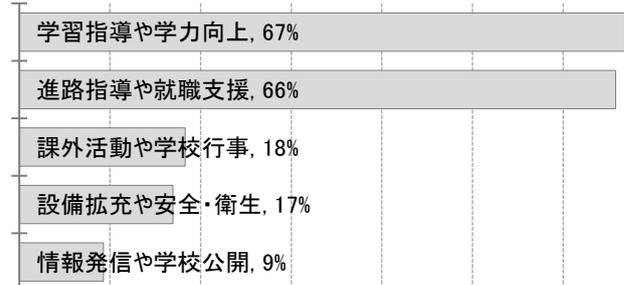
大きく育てる教育を通し、生徒・保護者・地域の期待と要望にしっかり応えていきたいと思えます。これまで以上の信頼と満足が得られるよう、学校が目指す教育の在り方、指導の実態、生徒の成長と活躍の様子などの発信にも一層の力を入れていく所存です。

学校のイメージと改善課題

Q2 本校の特徴として次のどれが当てはまりますか。



Q3 学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか。

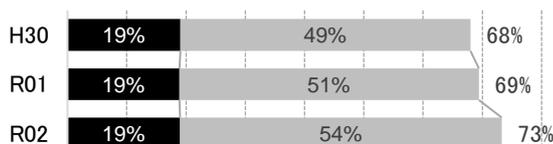


本校の特徴を尋ねると、保護者の54%(昨年度は48%)が「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」を選んでいきます。2位は「ひとりひとりを大切にしてくれる学校」で、上位2項目の構成は昨年度までと変わらず、二つを合わせた選択率も78%と昨年度の77%とほぼ同じです。一方、さらに充実を求めたいものは学習指導と進路指導が大多数を占めます。本校へのイメージ(大高の良さ)を損なうことなく、充実が求められる教育活動への注力も怠らずに、生徒、保護者、教職員が一体となった学校づくりを進めていければと考えております。

学習指導と進路指導のさらなる充実

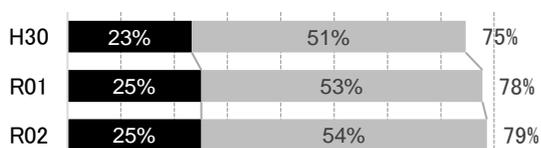
「学習指導や学力向上」「進路指導や就職支援」でのさらなる充実を求める多くの声に応えるべく、進路開拓や高大連携型ゼミナール等を講じています。一定の成果を得ています。

Q4 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。



学習指導への評価は肯定的な回答が73%と、昨年度を4ポイント上回りました。生徒による授業評価アンケートでも、「授業を受けて学力や技能の向上、自分の進歩を実感できるか」との質問に対して肯定的な回答が9割以上に達する授業の割合が、講義座学系で68%（昨年は61%）、実技実習系で92%（同72%）に増えています。現状には改善の余地が大きく残りますが、授業改善を組織的に進める手法も確立に向かっており、今後に更なるご期待をお持ちいただきたく存じます。なお、生徒による授業評価アンケートでは、評価項目（質問文）を新課程で求められる新たな学力像にマッチしたものに更新して、新しい時代が求める学びの実現に向けて舵を正したところです。学習指導の改善が進む様子も今後これまで以上にしっかりお伝えしていきたいと思えます。

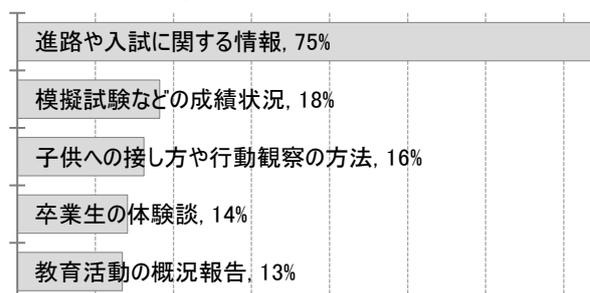
Q5 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の実現に十分に役立っていると思われませんか。



進路指導は、昨年度とほぼ同じ評価に止まり、肯定的な回答が占める割合は8割に届かないところで足踏みしています。生徒による評価では、「目標をもってひたむきに頑張ってきたか」「将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになったか」という質問の換算得点（75ポイントで「どちらかと言えばそう思う」に相当）が直近3カ年でそれぞれ74.4→76.7→77.6、74.7→76.7→77.3と少しずつ改善していますが、改善の歩みを加速すべく指導計画と

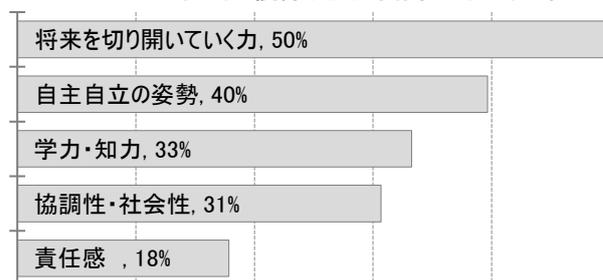
指導スキルの向上に取り組んでいるところです。

Q6 保護者会などで取り上げてほしいことは？



「保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか」という質問には、昨年同様に「進路や入試に関する情報」を選ぶ回答が圧倒的に多く見られ、進路を取り巻く状況と実際の指導の様子に強い関心が向けられています。一方、「教育活動の概況報告」も増えてきました。大高でも先駆的に新たな教育活動を取り入れて社会の変化に対応を図る中、しっかりとその様子や成果をお知らせしていくことの重要性を改めて認識しています。

Q7 子どもに獲得させたい資質はどれですか。

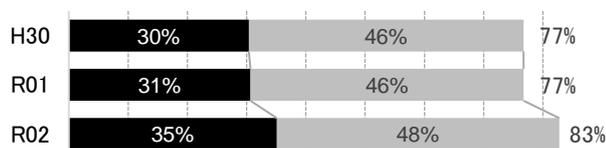


子どもに獲得させたい資質として最も多く挙げたのは、昨年同様「将来を切り開いていく力」です。これに続く「自主自立の姿勢」と「学力・知力」の選択率も少しずつ上昇しています。学習指導や進路指導の充実を求める声の増加と一致するところがあり、今後の学校経営ではこれらの力の着実な育成を目指し、教育リソースの最適配分を図ってまいります。

生徒へのアンケートでも、学校生活への総合的な満足度が最も高いのは、日々の生活で意欲の源泉としているものとして「学習や進路実現」を挙げた生徒でした。特に、本年度入学した現1年はこの傾向が強く出ています。新型コロナの感染予防で諸活動に制限を設けた部活動や学校行事では十分に意欲を發揮できない場面もあったかと思いますが、その分のエネルギーを「キミ色の夢を探す」ことに振り向け、頑張ってくれた生徒に頼もしさを感じます。

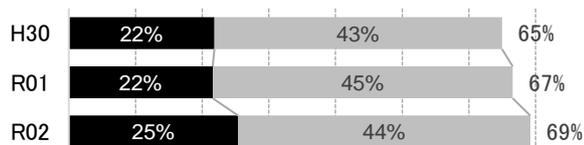
目標をもってひたむきに頑張る姿

Q8 保護者の目から見てお子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



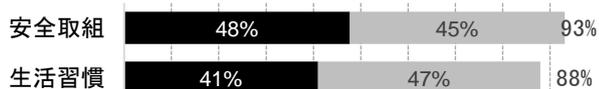
「お子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていますか」という問いへの肯定的な回答は昨年の77%を6ポイント上回りました。一人ひとりの生徒に夢を見つけて頑張ってもらうことを目標に教育活動を展開していますが、肯定的な回答をもっと増やしていきたいと思います。

Q9 お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



一方、学習面に絞ってお尋ねした「お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか」という質問でも肯定的な回答が占める割合が増えていますが、まだ7割に届かないところです。さらなる改善の必要性を改めて感じております。日々の授業の充実を図るとともに、生徒一人一人が「学ぶことへの自分の理由」を見つける機会として、「学習・探究・進路の各指導の一体化」を今後も推進していきます。また、日々の学習への真摯な取り組みを阻害している要因は生徒ごとに異なりますので、ひとりの課題にしっかり寄り添うべく、観察とコミュニケーションの一層の充実を図ります。

安全確保と規律ある生活の実現

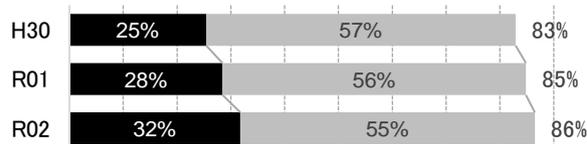


「生徒の安全に対する学校の取り組み」と「高校生にふさわしい規律ある生活」には、引き続き高い評価を頂戴していますが、いずれも「どちらかと言えば」との但し書き付きの部分が多くを占めています。細

部まで指導の目を届けることを心掛けるとともに、生徒の主体性と自律を促す指導の中で、高校生活を送る基盤を自ら整えられる生徒を育てます。

学校広報のさらなる充実を図ります

Q10 学校からの連絡文書や懇談会などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



様々な教育活動に取り組むとき、その意図と方法、及び成果を余すところなく伝えることが重要と考えています。学校の情報発信には過年度を超える肯定的な評価をいただきましたが、改善の余地は残っています。ホームページなども有効に活用し、保護者の皆様や受験生、地域の方々が必要としている情報をしっかりお届けする広報を心掛けてまいります。

Q11 進路希望や将来の職業あるいは学校での様子などについて家庭で話をすることはありますか。

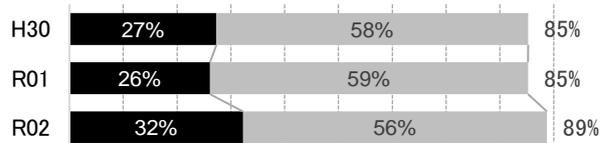
- ①話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる
- ②話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



進路選択における親子が互いの考えを十分に理解することはとても大切ですが、評価は低下傾向です。学校からの情報発信が密であるほど、家庭での対話が活性化するというエビデンスも得られましたので、来期に向けて巻き返しを図りたいと思います。

学校行事、部活動の指導

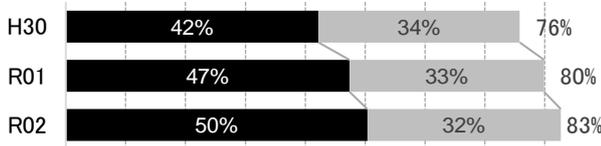
Q12 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



学校行事については、新型コロナの影響で様々な制限がありましたが、昨年を上回る評価を得ました。

学校行事は、生徒の主体性や協働性を育む場として重要な役割を担います。今後も、教育機会としての「生徒が主役の学校行事」の実現に努めます。

Q13 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。



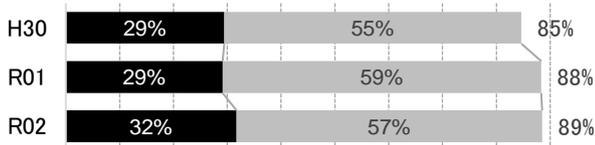
部活動顧問の指導は、昨年度を超える評価をいただきました。今後も生徒の安全と健康に十分に配慮した上で、生徒が存分に活躍し、成長できるよう指導の改善を重ねて参ります。

将来を考えた行動選択、共存の資質

Q14 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。

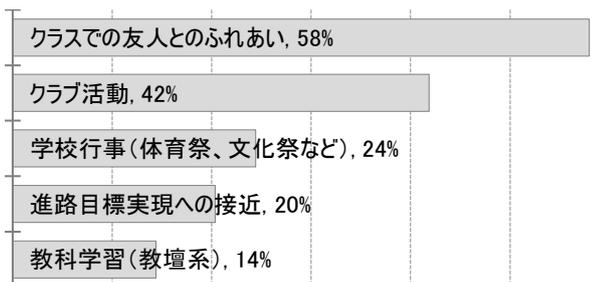


Q15 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



保護者の目を通した生徒の成長ぶりを「将来と結び付けた行動の選択」「立場の異なる相手に耳を傾ける姿勢」という質問でお訪ねしました。前者は5ポイント上昇し、後者も高い評価を維持できました。

Q16 お子様在意欲や目標をもって学校に進んで通う姿勢を示している対象は何ですか。



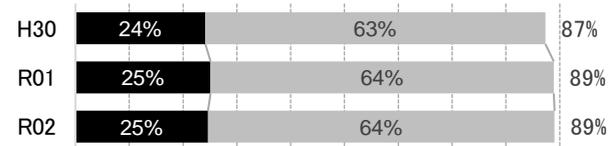
左下の表は単純集計の結果ですが、前掲 Q8「目標をもってひたむきに頑張っているか」で「そう思う」を答えた保護者だけを抽出して再集計してみると、クラブ活動が52%、進路目標実現が28%、教科学習が20%へとそれぞれ値を大きくします。日々の学校生活を大切にするとともに、ひたむきに夢を描き未来を拓こうと頑張る生徒を支え、育てていくことに教職員一丸となって今後も取り組んでいきます。

育友会の活動、保護者との相互理解

Q17 育友会について	H29	H30	R01	R02
1. たいへんに関心があり、内容も分かっている	6.9%	6.7%	6.8%	6.6%
2. 関心はあるが、内容についてはよくわからないことが多い	34.0%	33.0%	35.0%	33.7%
3. あまり関心はないが、活動の内容はある程度知っている	25.7%	27.3%	28.6%	25.9%
4. あまり関心はないし、活動の内容もよく知らない	33.4%	33.0%	29.6%	33.7%

育友会の活動内容をご存じの保護者の割合は33%(回答1.と3.の合計)、活動内容に関心があるのは40%(同1.と2.の合計)です。生徒の健全な成長や教育の向上・発展を目的に、保護者と教職員の協力・連携の場として設置された組織が、その機能を十分に果たすには、保護者の皆様の理解と関心が欠かせません。今後、活動の広報に一層の注力をいたします。

Q18 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いませんか。



保護者の要望・意見に対する学校の誠実な対応については、概ね良好な評価をいただけたようですが、「そう思う」は4分の1に止まります。問題点の特定と共有を図り、さらなる改善を図る所存です。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 教頭 上山 陽